

I 実践事例

保健体育科（保健分野）学習指導案

令和4年10月19日（水）5校時
3年3組 男子15名 女子20名 計35名
指導者 宮原 知佳

1 単元名 個人の健康を守る社会の取組（健康な生活と疾病の予防）

2 単元について

健康の大切さや健康に良い生活、病気の起こり方や予防等については、小学校体育科保健領域で学習し、1学年では健康の成り立ち、疾病の発生には主体と環境の要因が関わっていること、運動、食事、休養及び睡眠等、生活習慣が健康に深く関わっていることなどを学習してきた。それを踏まえ2学年では、生活習慣と心身の健康の関わりや生活習慣病を予防するには適切な生活習慣を身に付けることが有効であること、健康診断やがん検診などで早期に発見することが疾病の回復につながることを学んできた。

3学年で学習する本単元「個人の健康を守る社会の取組」では、今まで学習してきた内容のまとめとして、日々健康に過ごすための取り組みや各機関がどのようにかかわっているかを学習する。特に保健所や保健センターの役割に着目し、健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することが重要であることについて理解し、さらには個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取組と密接なかわりがあることを学び、様々な知識を身に付けた上で自分自身にできることを考えていくことを目的としている。

とりわけ本単元では、個人の健康と社会の取組から、最も身近に存在する疾病であるがんを例に挙げ、再度がんについて学ぶことで、がんについて正しく理解し、がん教育を通じて健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を目指したい。

3 生徒の実態

3年3組は男子15名、女子20名の計35名のクラスである。本学級は普段から明るく和やかな雰囲気をもっている。男女の仲もよく、どの授業に対しても意欲が高く、積極的に取り組む姿勢が多くみられる。小グループ活動では仲間同士で活発に意見を交換することができ、クラスで決めた取組等には全員で協力して取り組むことができる。

今回は2学年で学習した「がんの予防」の学習の振り返りも含め、がん教育に関する事前アンケートを実施した。

「がん」に対する生徒の実態は以下の通りである。

質問1 がんについてどのような印象をもっているか？（複数回答可）				
治らない・治すことが難しい（8人） 怖い（6人） 危険（6人） 重い病気（2人） かかったら死ぬ（2人） 苦しい（1人） いつかかるかわからない（1人） ほとんどの人が将来的になってしまう（1人） 発見が遅れると命にかかわることがある（1人） 進行すると治りにくい（1人） 体のどこにでもできて場所によっては取り除けない（1人） 日本で一番死者が多い病気（1人） 早期発見しないと治しにくい（1人）				
質問2 がんの学習の重要性について	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ	82.8%	17.2%	0.0%	0.0%
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ	82.8%	17.2%	0.0%	0.0%

質問3 がんという病気について		正しい	誤り	
がんは誰もがかかる可能性のある病気である		100.0%	0.0%	
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり命を失ったりすることがある		100.0%	0.0%	
がんは日本人の死因の第2位である		51.7%	48.3%	
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある		100.0%	0.0%	
早期発見すれば、がんは治りやすい		96.4%	3.6%	
体の調子がいい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい		10.3%	89.7%	
がんの治療法には手術治療しかない		13.8%	86.2%	
がんの痛みは我慢するしかない		10.3%	89.7%	
質問4 がんへの考えと共生社会について	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
自分はがんにならないと思う	3.4%	13.8%	24.1%	58.6%
将来、たばこは吸わないでいようと思う	89.7%	3.4%	3.4%	3.4%
日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う	79.3%	20.7%	0.0%	0.0%
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う	58.6%	34.5%	6.9%	0.0%
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである	13.8%	44.8%	31.0%	10.3%
がんになっても生活の質を高めることができる	31.0%	27.6%	37.9%	3.4%
がんになっている人も過ごしやすい世の中にした	86.2%	13.8%	0.0%	0.0%
がんと健康について、まずは身近な家族から話ろうと思う	51.7%	37.9%	10.3%	0.0%
家族や身近な人が健康であって欲しいと思う	96.6%	3.4%	0.0%	0.0%
長生きするために、健康な体づくりに取り組もうと思う	86.2%	10.3%	3.4%	0.0%
質問5 がんはさまざまな種類があるが、知っている病名は？ (複数回答可)				
肺がん(14人) 胃がん(9人) 乳がん(9人) 大腸がん(6人) 子宮頸がん(5人) 卵巣がん(5人) 骨肉腫(5人) 白血病(5人) 悪性リンパ腫(4人) 皮膚がん(4人) 肝臓がん(4人) すい臓がん(4人) 子宮がん(4人) 小腸がん(2人) 十二指腸がん(2人) 軟骨肉腫(2人) 小児がん(1人) 口腔がん(1人)				

質問1のがんへの印象については、「治らない」「怖い」「危険」「重い」「死」など、負のイメージを持っている生徒がみられた。

質問2のがんの学習の重要性等については、肯定的な回答をした生徒が100%であった。

質問3のがんの知識に関する質問については、概ね正答をしているが、「日本人の死因の順位」については、誤答(51.7%)がみられた。また、質問3の「がんは誰もがかかる可能性のある病気」と100%の生徒が回答している一方で、質問4の「自分はがんにならないと思う」に回答した生徒が17.2%みられた。

質問5のがんの種類については、上の表のようにさまざまな病名が挙げられた。

この事前アンケートの結果、がんに対して基礎的な知識はあるが、理解が不十分なこともあるため、自分自身とは無関係だと考える生徒や、良くないイメージをもっている生徒がいることが分かった。

4 教師の指導観

本単元では、2学年での既習事項「生活習慣病とその予防」と関連づけながら、健康の保持増進や疾病の予防には、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であることを身に付けることができるような指導を目指す。

また、日本人の死因1位であり、2人に1人がかかると言われている身近な病気であるがんに着目し、健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるような指導を図る。

特に、生徒からのアンケート結果では、がんに対して「怖い」「死に繋がる」という良くない印象を持つ生徒が多く見られるので、がんに対する正しい知識を身に付けさせ、そのようなイメージを払拭したい。

さらに、アンケートの質問でも示した、がん患者への理解と共生、そして生活の質等、自他の健康に関心をもち、現在だけではなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組む態度を身に付けることができるような実践的な指導を展開する。

5 単元の目標

- (1) 健康な生活と疾病（がん）の予防について、理解することができるようにする。 【知識・技能】
- (2) 健康な生活と疾病（がん）の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらの表現をすることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 健康な生活と疾病（がん）の予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動などの個人が行う取組とともに社会の取組が有効であることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>②社会の取組としては、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として、各機関が持つ機能を有効に利用する必要があることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>③医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用する必要があることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>	<p>①疾病の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして疾病にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択している。</p> <p>②健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、プリントに記述したりして、筋道を立てて伝えあっている。</p>	<p>①健康な生活と疾病の予防について、身近な問題として捉え、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

(2) 指導計画と評価計画（5時間計画） 本時は○印

時	学習のねらい・活動	知・技	思・判・表	主体	評価方法
1 医薬品の正しい利用	<p>I ねらい</p> <p>医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用法があり、正しく使用する必要があることについて理解できるようにする。</p> <p>II 学習活動</p> <p>1 自分自身や家族の医薬品についての使い方や飲み方について振り返る。</p> <p>2 教科書や教師が提示するパワーポイントを参考にし、医薬品の効果や使用法について理解する。</p>	③			<p>・医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用法があり、正しく使用する必要があることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【知識・技能】 (ワークシート)</p>
2 保健・医療機関の利用	<p>I ねらい</p> <p>健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動などの個人が行う取組とともに社会の取組が有効であることや、社会の取組としては、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として、各機関が持つ機能を有効に利用する必要があることについて、理解できるようにする。</p> <p>II 学習活動</p> <p>1 教科書や教師が提示するパワーポイントを参考にし、保健機関、医療機関の役割について理解する。</p> <p>2 学習した内容から、個人や社会の取組として、どのようなものがあるか考え、グループで意見を共有する。</p> <p>3 次回に向けて、「健康な生活を送るために」というテーマで「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」の3つのキーワードから、調べたい内容を選び、3～4人1組のグループに分かれる。</p>	②			<p>・健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動などの個人が行う取組とともに社会の取組が有効であることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【知識・技能】 (ワークシート)</p>
3 健康な	<p>I ねらい</p> <p>生活習慣、細菌・ウイルスによる感染症等の疾病予防や前時の学習で習得した知識を自他の生活に適用したり応用したりして、健康を保持増進する方法を選択することができるようにする。</p>		①		<p>・疾病の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして疾病にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を</p>

<p>生活を送るために</p>	<p>II 学習活動</p> <p>1 前回学習した内容について確認し、「健康な生活を送るために」というテーマから、がんの仕組みや予防、早期発見に着目し、がんに対するリスクの軽減や健康の保持増進に関して、3～4人グループに分かれ、インターネットや配布資料を参考に調べ学習を行う。</p> <p>2 グループごとに調べた内容や自分の考え、他者の考えを共有し、健康な生活を送るための適切な方法を考える。</p>			<p>選択している。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ワークシート・観察)</p>
<p>④個人の健康と社会的な取組との関わり</p>	<p>I ねらい</p> <p>がんについて調べたことや共有した情報をもとに、自分自身の生活を振り返り、今後の生活習慣や行動を考えることができるようにする。</p> <p>II 学習活動</p> <p>1 前時にそれぞれが調べた内容について発表し、意見を交換し合う。</p> <p>2 がんについて学んだことや共有した情報を参考に自分の生活習慣を振り返り、今後の生活習慣や行動にどのように繋げていくか考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>3 まとめた内容をグループや全体で共有する。</p>		<p>②</p>	<p>①</p> <p>・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、プリントに記述したりして、筋道を立てて伝えあっている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ロイロノート・観察)</p> <p>・健康な生活と疾病の予防について、身近な問題として捉え、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>【主体的に取り組む態度】 (観察)</p>
<p>5 共に健康に生きる社会</p>	<p>I ねらい</p> <p>講師から業務内容やがんについての話を聞き、学習してきた内容と繋ぎ合わせ、より「がんの予防」や「がんの早期発見」の重要性について理解できるようにする。</p> <p>II 学習活動</p> <p>1 厚生連から講師を招き講演会を聞く。</p> <p>2 がんについての学習内容や講演会を聞き、再度がんの予防や共生について考える。</p>	<p>①</p>		<p>・疾病の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして疾病にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択している。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ワークシート・観察)</p>

7 本時の学習と指導

(1) 本時の目標

- ・がんの予防等について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組むことができるようにする。
- ・がんの予防等に関する課題について、適切な解決方法を導き出すとともに、その理由などを、他者と話し合ったり、プリントに記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。

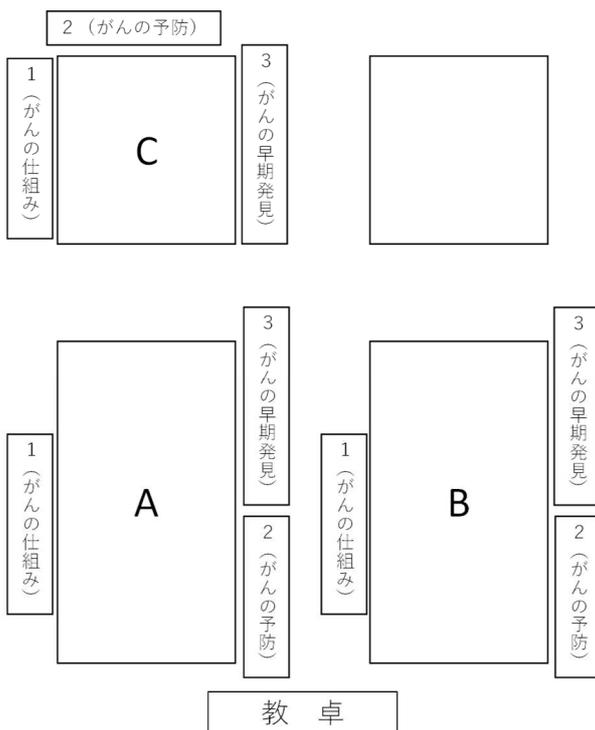
(2) 本時の展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入	<p>1 前時の振り返り，活動の流れを確認する。(5分)</p> <p>2 本時のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> がんの予防等を踏まえて，健康な生活を送るために私たちにできることを考えよう。 </div>	<p>○前時に学習した内容をモニターに提示し，振り返りを行う。</p> <p>○本時の課題を理解し，学習の見通しを持たせる。</p>
展開	<p>3 グループによる情報共有 (15分)</p> <p>○グループで発表する内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿やスライドの最終確認をする。 ・発表者やタイムキーパーなど，全員が必ず役割を持つように分担を確認する。 <p>○グループで調べた内容を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」の3つのカテゴリーがすべて入ったグループを3つ作って発表会を行う。 ・各グループの発表時間は4分(質疑応答を含む) ・グループごと，テーマをもとにロイロノートで作成したスライドを使って発表をする。 ・原稿はワークシート①を使用する。 ・聞き手はそれぞれのグループからの発表を聞き，ワークシート②の“①各グループの発表を聞こう”へメモをする。 ・ただ聞くだけでなく，気になったことやわからない単語があったら，積極的に質問し，情報を共有する。 <p>4 自分の生活を振り返る。(25分)</p> <p>○自分の生活習慣を振り返り，今後に繋げる。</p>	<p>○それぞれの役割分担を決め，全員が発表に関わるようにさせる。</p> <p>○重要なポイントや発表を聞いて納得したことを必ずメモし，意見を共有する時間を確保させる。</p> <p>◆健康な生活と疾病の予防について，身近な問題として捉え，課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】(観察)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て 机間指導の中で，教師がアドバイスをするなどして，学習を支援する。 「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 発表を聞きながらメモを取ったり，積極的に質問をしたりするなど，自主的に意見を言ったり書き出したりしている。 </div> <p>○学習したことや共有した情報をもとに具体的に考えるよう促す。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生活習慣を振り返り，課題を明確にし，ワークシート②の“②自分の生活習慣を振り返ろう”へ記入する。 ・発表で共有した情報をもとに，今や将来，どのような生活を送りたいか，どのようにしていきたいか，そのためにできることを考え，ワークシート②の“③今後の生活に向けて，目標を立てよう”へ記入する。 ・発表スライドはロイロノートへ提出し，常に振り返ることができるようにしておく。 <p>○グループでワークシートに記入した内容を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の今後の目標を写真に撮り，ロイロノートで共有する。 ・他者の発表を聞き，全体で共有する。 	<p>◆健康な生活と疾病の予防について，課題の解決方法とそれを選択した理由などを，他者と話し合ったり，プリントに記述したりして，筋道を立てて伝えあっている。</p> <p>【思考・判断・表現】（ロイロノート・観察）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て</p> <p>机間指導の中で，着目する視点を教えたり，アドバイスしたりして，課題点を見つけ目標を考えられるように学習を支援する。</p> <p>「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿</p> <p>生活習慣やがんの予防について改善点を具体的に考え，理由や科学的根拠をもとに，自身の課題を発見している。</p> </div>
ま と め	<p>5 振り返り（5分）</p> <p>○がんについて，教師の話を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のワークシートをもとに，今後の生活で大切にしてほしいことを伝える。また，次回予定している厚生連の講演会について話をし，次回へ繋げる。 	

8 その他

- ・ 1（がんの仕組み），2（がんの予防），3（がんの早期発見）をテーマに調べたグループをABCの3カ所に分ける。
- ・ 発表は向かい合い，1（がんの仕組み）→2（がんの予防）→3（がんの早期発見）の順で行う。
- ・ 発表時間は各テーマ4分（質疑応答を含め）とし，はじめと終わりの合図は教師側で行う。



健康な生活を送るために②

3年 組 番 名前

①各グループの発表を聞こう。

グループ	がんの仕組み	がんの予防	がんの早期発見
テーマ			
メモ			

②自分の生活習慣を振り返ろう。

今の生活習慣の課題点



③今後の生活に向けて、目標を立てよう！！

	理想の将来像	そのためにできること（具体的に）
今の私		
30・40・50代の私 (お父さんお母さん世代)		
60・70代の私 (おじいちゃんおばあちゃん世代)		

II 実践のまとめ

【生徒に対する事前・事後アンケート結果について】

質問1 がんについてどのような印象を持っているか
<授業前> 治らない・治すことが難しい（8人） 怖い（6人） 危険（6人） 重い病気（2人） かかったら死ぬ（2人） 苦しい（1人） いつかかるかわからない（1人） ほとんどの人が将来的になってしまう（1人） 発見が遅れると命にかかわることがある（1人） 進行すると治りにくい（1人） 体のどこにでもできて場所によっては取り除けない（1人） 日本で一番死者が多い病気（1人） 早期発見しないと治しにくい（1人）
<授業後> 怖い（6人） 2人に1人がなる病気（5人） 誰でもなる病気（5人） 死因1位の病気（3人） かかったら死ぬ（3人） 身近な病気（2人） 死亡率が高い（1人） 重い（1人） かかったらなかなか治らない病気（1人） 治りやすいがんと治りにくいがんがある（1人）

質問2 がんの学習の重要性について	実施前	実施後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	82.8%	100.0%	+17.2
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	82.8%	96.4%	+13.6
質問3 がんという病気について	実施前	実施後	増減
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）	100.0%	100.0%	±0.0
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり命を失ったりすることがある（正しい）	100.0%	96.4%	-3.6
がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	48.3%	89.3%	+41.0
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）	100.0%	92.9%	-7.1
早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	96.4%	100.0%	+3.6
体の調子がいい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）	89.7%	96.4%	+6.7
がんの治療法には手術治療しかない（誤り）	86.2%	96.4%	+10.2
がんの痛みは我慢するしかない（誤り）	89.7%	89.3%	-0.4
質問4 がんへの考えと共生社会について	実施前	実施後	増減
自分はがんにならないと思う（どちらかというと思わない・そう思わない）	82.7%	92.8%	+10.1
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う）	89.7%	89.3%	-0.4
日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	79.3%	92.9%	+13.6
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	58.6%	71.4%	+12.8
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（そう思わない）	10.3%	50.0%	+39.7
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	31.0%	42.9%	+11.9
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	86.2%	96.4%	+10.2
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	51.7%	64.3%	+12.6
家族や身近な人が健康であって欲しいと思う（そう思う）	96.6%	96.4%	-0.2
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	86.2%	89.3%	+3.1

生徒の感想

- ・がんについて正しく理解することで、自分でがんを予防するだけでなく、がん患者さんともうまく共生できることが分かった。
- ・がんの早期発見は難しいことだと思う。ほとんどの人が検診などを後回しにしていると思うから自分になるべく早く検診するようにしたい。

- ・がんは身近なものであり、生活習慣に気をつけたり、定期的に検診したりすることが大切だと分かった。がん患者と共生していくためにもまずは自分が知識をつけるなどして偏見がないようにしたいと思った。
- ・がんは誰がなってもおかしくない病気だし、多くの人になる病気でもあるから偏見などはせずに、がん患者の人も周りの目が気にならないように過ごせる社会を少しでもつくるのが大切だと思った。
- ・自分は夜寝るのが遅いので、まずはそこから生活習慣を見直していきたいと思った。
- ・身近な人ががんになったとしても支えていけるような人になりたいと思った。
- ・がんは誰がなってもおかしくない病気なので、自分や家族がなったときに支えてくれる社会であって欲しいと思った。

質問1のがんへの印象については、実施後も「怖い」が最も多くみられた。これは、「2人に1人になる」「誰でもなる」「身近」な病気であることや「死因1位」の病気という学習した内容から感じる印象だと考えられる。

質問2のがんの学習の重要性については、「そう思う」と回答した生徒の割合が授業前よりも多くなり、がん教育が生徒にとって有用であることが改めて確認できた。

質問3のがんの知識に関する質問については、「日本人の死因の順位」の正解の割合が授業前48.3%から授業後89.3%と多くなった。その他の質問については大きな変化はみられなかった。

質問4のがんへの考えと共生社会については、「自分はがんにならないと思う」に「どちらかというともうそう思わない・そう思わない」と回答した生徒の割合が増加し、がんを身近な病気ととらえる生徒が増加したと考えられる。また、「健康な体づくりに取り組もうと思う」「検診を受けようと思う」「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」に「そう思う」と回答した生徒や「治療方法は医師が決めるものである」に「そう思わない」と回答した生徒の割合が授業前よりも増加し、がんやその予防について主体的に考える生徒が増えたと考えられる。

生徒の感想には「がんについて正しく理解することができた」「がんは誰がかかってもおかしくない病気」という意見が多くみられた。また、「周りの人ががんになったときに優しくしたい」「がんの人も過ごしやすい社会にしたい」「がんの人と共生していきたい」という共生社会についての意見も多く見られた。

事後アンケートの結果、授業前よりも正しい知識が身につく、がんは自分の身近にあり誰もがかかる可能性のある病気だという意識が高まったことが分かった。

【「がん教育推進校授業公開」アンケート結果（甲斐市立竜王中学校 R4.10.19 実施）】

対象者 がん教育総合支援事業連絡会委員4名，一般参加者8名

	達成できた←			→達成できなかった	
	5	4	3	2	1
本時の目標は達成できたか	4	7	1	0	0
学校におけるがん教育を進めるうえで、本日の授業はどうだったか	5	7	0	0	0

○本時の目標は達成できたか（評価の理由）

- ・ICTを活用しながら課題について分かりやすく端的にまとめ表現していたため。得た知識から自分の生活に活かしていきたいことを見つけようとする姿が見られたため。
- ・がんに対して調べることで、自分事として自らの健康への意識や生活習慣の振り返りと、将来に向けての予防意識に繋がり目標達成できたのではと思いました。調べ学習からグループワーク発表については、取り組みは良かったと思います。一方で正しい知識には、医療者等のチェックが入ったものを発表されると良いと感じました。次回、厚生連の方によるフォロー授業が行われるとのことで、連携して作り上げていくのは大変良いと思いました。

- ・グループ全体のお話を伺いたかったのですが、1/3くらいしか聞くことができなかつたから。
- ・授業後の研究会でも発言させていただきましたが、生徒から「楽しい」「がんについて初めて知ることが多かった」などの言葉が聞かれたため。
- ・生徒が他グループの発表から、自分の生活とつなげながら考えをまとめていたと感じたから。

○学校におけるがん教育を進めるうえで、本日の授業はどうだったか（評価の理由）

- ・インターネットを使つての事前学習は、とても良かった。その成果を基にグループワークを行い、それぞれが言葉にして発表する方式は非常に評価できます。
- ・がんについて理解させるのは難しいと感じていたが、時間をかけ丁寧にすれば充分理解することができると感じた。
- ・ロイノートを使い、生徒同士の共有の時間が充実しているように感じました。
- ・今回の学習をもとにして、普段の会話の中にも話題に上ると授業者から発言があり、教育の第一義でもある「日常化」が見て取れるため。
- ・授業の内容については、生徒が「がん」について向き合うことができていると思う。しかし、この単元において取り扱う場合は、最終的に「がん」にのみフォーカスするのではなく、もっと広い視野で考える必要があると感じたから。
- ・新たな課題も見えた。外部講師の役割も明確にできた。
- ・大変参考となる授業実践でした。グループごとにテーマ設定し、調べたことをスライドにまとめることだけでも十分な知識の習得が図れると感じた。ICTを活用することでより協働的な学びが実現できていると感じた。
- ・保健体育として身につける知識と、がんの知識でどこまで指導するのかの難しさを感じました。またネットでの調べ学習としてどこまでが正しい情報なのか見極める難しさを感じました。

○学校におけるがん教育を進めるうえでの課題について

- ・がんについて調べ学習をする時に、活用できるサイトやものについての知識不足。
- ・家族をがんで亡くした生徒もおり、生活習慣等に気を付けることで予防につながるがんもあれば、予防が難しいがんもあること、また検診により早期発見できるものもあれば、発見が困難なケースもあることなどを、知識として理解させた上で、望ましい予防的行動が取れるように学習をすすめることが必要だと思う。
- ・間違つた解釈をしている部分に対し、専門家を含めた振り返りをする時間がほしいと思った。
- ・研究会の場でも話題になりましたが、資料の正確性は突き詰める必要があります。（これはどの教科の学習にも言えることですが…）
- ・講師を招いた授業と単元にあつた保健学習が併用してできたらいいと思いました。
- ・十分な授業時間の確保。
- ・調べ学習を取り入れる場合は、がんに対する正しい知識とその調べ方が重要だと思います。国立がん研究センターの「がん情報サービス」や厚生労働省など、国や県の情報で調べることを先に伝える方がいいのではないのでしょうか。また、親族が闘病中や亡くなっているなどに対する配慮として、生活習慣が悪かつた人ががんになつたわけでは無いことも合わせて伝えていくことも必要なのではと思います。
- ・養護教諭との連携。

○その他（気づいたこと・感想）

- ・ICT 活用が素晴らしかった。この素晴らしいスライドは、自宅に持ち帰り家族へも情報共有してもらい、家族で健康について話し合える機会があればいいのかなとも思いました。子どもたちの今後の生活目標には、家庭を持ちたい、父親になっているなど素敵なのが書かれていました。健康でよりよい将来を送るために、健康な生活と疾病予防が大切と結びつけられるので大変よい学習だと思っていました。
- ・がん教育＝外部講師の活用と考えてしまっていたが、保健体育のなかで取り組むことも大切だと感じた。また、疾病予防の一つとして保健教育で取り組んでいかななくてはと思った。
- ・子どもたちのスライドが端的で分かりやすかったため、どのように指導し、どのようなものを活用したのか、より詳しく知りたくまりました。ありがとうございました。
- ・手探りで何度も検討を重ねられた授業で大変だったと思いますが、生徒たちががんに対して関心を持ち、自らの健康について考えられたことは素晴らしい内容だったと思えました。今後は、ぜひがん体験者の話も加えていただけると、よりがんを身近な病気の一つとして意識が高まると思います。特に、最近では、中学生の親族ががん罹患していることが増えてきているため、がん患者に対しての関わり方で悩んでいる生徒もいると思います。もしも身近な人ががんになった場合、自分達に出来ることは何かあるのかということを考えてもらうきっかけにもなると思います。教師、医療者、体験者が連携をすることで、生徒のためのより良いがん教育が実現できるのではと思います。それぞれが各専門分野でがんを伝えていくことが、生徒のためのがん教育となり、社会に対応していけるような教育に繋がると思います。
- ・生徒1人1人が自分の言葉でまとめ、伝えている場面は素晴らしいと思えました。ありがとうございました。

【甲斐市立竜王中学校におけるがん教育について】

本来がんについては2学年で扱う単元の中で学習するが、本指定を受け授業を担当する保健体育科教員が3年部に所属していたため、今回の授業は3学年の単元「個人の健康を守る社会の取組」と関連づけ、再度がんについて学ぶ機会とした。身近に存在する疾病であるがんについて再度学ぶことで、がんについてさらに正しく理解し、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の向上を目標とする授業となった。

アンケートの結果をみると、今回の授業を通して、他人事だったがんを誰もが罹る可能性がある病気であると自分事として考えられるようになったことがわかる。また、健康の大切さに気づき、予防のためにできることを実践していこうという意識の向上が見られた。さらに、講師の方に共生についてお話をいただいたことで、身近な人ががんになったら「支えていきたい」、「みんなが暮らしやすい社会にしたい」という思いをもつことができた。

今回の授業で行った調べ学習・グループワークが、がん教育への興味・関心を高めるために大変有効であったと言える。自分が関心を持っている内容について調べることも興味・関心を高めることにつながった。また、調べ学習をグループワークにすることで、自分だけでは調べられない、不足している部分についても多角的・多面的に深めることが可能となった。さらに、発表するための資料作成や原稿作成が調べた知識を整理することにもつながった。

しかし、ICTを活用した調べ学習の場合、情報源がインターネットに偏ってしまうため、調べた内容に誤りがあった、古い情報だった、というグループがみられた。事前に活用できるサイトや資料の情報を提供したり、教員が内容の誤りについて確認できるようにデータの出典などを資料に記入させたりする必要があった。ただ、教員がデータの出典元を確認したとしても、その内容が正しいかどうか判断するための知識が不足しているため、内容を確認することは難しい。今後、生徒に提供できるサイトや資料を整備することやICTを活用した授業での注意点について共通理解を図りながら、教師自身が、がんやがん教育のために必要な知識を広め、深めていく必要がある。

授業の最後に自分の将来や家族をイメージさせて、健康な生活を送るために自分ができることを考えさせた。自分で調べた内容や他者の発表内容を生かして自分にできることを考える姿、自分の生活を振り返り考える姿がみられた。その後、ICTを活用したことで他の生徒が考えた内容についてスムーズに共有することができた。これらの活動が、健康への大切さや予防のためにできることを実践しようという意識の向上に有効だったと考えられる。

外部講師には保健体育の授業でゲストティーチャーとして話を伺うことも検討した。しかし、本校は1学年が4クラスあり、すべてのクラスの授業に参加していただくことは難しいと判断し、今回は学年の生徒全員が外部講師の話を伺えるように講演会の形式とした。保健体育科の教員が授業を行い、講演会はまとめとしてがんの知識の復習や共生についての話を伺う流れで行った。講演会では、外部講師が生徒の調べた内容について誤りがあった部分を訂正し、がんについての正しい情報を伝えた。その後、がん患者の事例からがん患者との接し方、がん患者が暮らしやすい社会について個人で考え、グループで話し合い、全体で共有するという流れで行った。生徒は自分たちで調べ学習を行い、がんについての基本的な知識を身に付け、興味関心が向上している中での講演会であったため、外部講師の話を集中して聞き、話し合い活動にも積極的に参加することができていた。授業後の感想に共生に関する内容を記入した生徒が8割を超えていたことから、講演会が生徒の印象に残ったことが分かる。

授業のまとめとして伺った外部講師の話は、生徒の知識の確認とみんなが暮らしやすい社会にしたいという思いをもたせる上で有効だったと考えられる。外部講師をゲストティーチャーに招いて行う授業の効果については、本校で実施する事はできなかったため、今後の研究に期待したい。

また、学校や保健体育科の教員にどのような方に外部講師をお願いできるかという情報が少ないことは課題である。今年度の外部講師は昨年度の山梨県がん教育指導者研修会を参考に山梨県厚生連健康管理センターをお願いした。今後も外部講師の情報を収集し、本校のがん教育のねらいにあった外部講師をお願いしていきたい。

以上、本校ではグループでの調べ学習や発表を通して生徒のがんへの興味・関心を高めることができた。また、自分の将来や自分ができることを考える活動を通して健康の大切さに気づき、予防への意識を向上させることができた。さらに、外部講師の講演会を通してがんやがん患者と共生することの大切さについて学ぶことができた。今後はがんに対する教師の知識不足、情報不足という課題の解決を図りながら、来年度も今年度と同様のかたちでがん教育を続けていきたい。

終わりに、本校の研究推進に対してご指導並びにご支援を賜りました山梨県教育委員会保健体育課の諸先生方、山梨県厚生農業協同組合連合会の方々をはじめ、山梨県がん教育総合支援事業がん教育推進連絡会委員の皆様には深く感謝申し上げますとともに、今後とも、本校がん教育推進になお一層のご示唆を賜りますようお願い申し上げます。